

昭和48年1月13日第三種郵便認可  
HSK通巻511号  
発行日/2014年10月10日(毎月10日発行)  
編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光  
北海道白老郡白老町字萩野 310-110  
TEL (0144) 83-3537

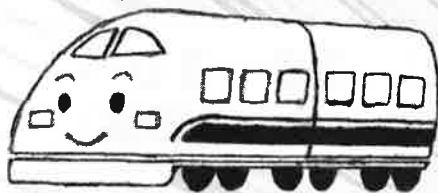
会報/217  
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)  
定価/1部100円(会費に含む)

HSK

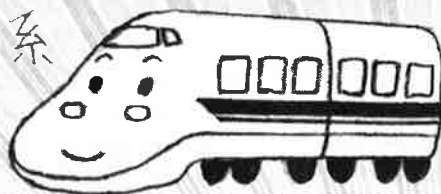
2014.10月号

# ほほえみ

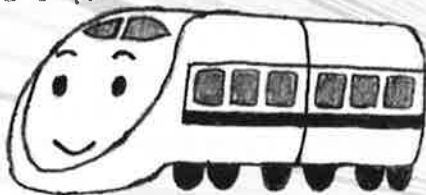
300系



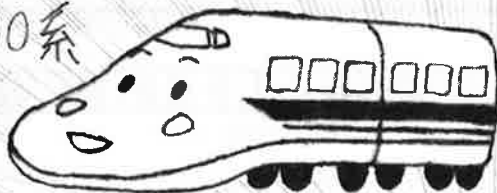
700系



500系



N700系



橋本宏樹

白老町手をつなぐ育成会

# 障がい児教育講演会

障がいに対する理解を深めてもらうために、今年は障がい児教育講演会をしようということにしました。多くの人に参加していただくために、なるべく他の行事とぶつからないように開催時期は検討したつもりだったのですが、バッチリぶつかってしまいました。

当日町民音楽祭だったのです。

今回講師にお願いした岡山英次さんは、『チャレンジキャンパスさっぽろ』の施設長をやっている方で、元伊達中学校太陽の園分教室、伊達中学校ひまわり分校、星置養護学校太陽の園分校で訪問教育や寄宿舎教育の実践をしてきた先生です。

18日(土)の講演では、「もし地元で養護学校があったら」というテーマでお話ししていただきます。まだ予定があいていましたら、是非予定に入れてお話しを聞きに来て下さい。

今回の講演会は、養護学校誘致問題の取り組みと関わって開催することにしたので、白老町議会議員と白老町の町内会長全員に案内状を出すことにしました。養護学校が地元にある必要性を理解していただき、共通理解を少しでも図れたらと思うのです。

全町の町内会長さんは105人いますが、現在1割近くの会長さんから「参加します。」というご返事をいただきました。主催者側としては大変勇気づけられています。

昨年は、苫小牧の保護者の方と懇談する機会を持って、平取養護学校の現状を交流しましたが、「苫小牧に無理なら白老に養護学校を設置して欲しい」という意見もありました。障がいがあるという理由で、小さいときから寮住まいを強いられたり、狭い部屋に何人も入れられる理不尽さは正すべきだと思うのです。障がいがあるからこそ親元で行き届いた教育が必要なのだと思います。私たちが主張しているのは、障がい児の保護ではありません。障がい児もその親も地域で普通に暮らすことのできる社会なのです。

**開催日時**

**10月18日(土)、13:30~**

**開催場所**

**しらおい経済センター(白老駅横)**

**『志金』は10月21日(火)で締め切らせていただきます**

8月号と9月号でお願いした「志金」ですが、『志』を共有して下さった多くの皆様のご協力で目標としていた6000の見通しはたちました。しかし、当初の建築予定の場所を少し移動する必要がでてきたり、電気代の値上がりからできれば電気をLEDに変えたり、安全上から施設の谷側に防護策を設置したり等の検討もしていますので、できればもう少し資金にゆとりがあればと考えています。フロンティアの事情はともかくとして、今回皆さんにお願いしました『志金』計画は、10月21日で終了し今後の方策を検討したいと思っています。私たちの勝手なお願いにたくさんの方が声を上げて下さいました。その声を聞いたたびに『志』が励まされました。世の中捨てた物じゃないとの確信と、後援会員の皆さんのお心に気持ちが熱くなりました。

これからは、皆さんの『志』に応えられるフロンティア実践を積み重ねていこうと思います。この取り組みで、皆さんの気持ちが社会福祉法人ホープの財産なのだとつくづく思いました。私たちも又、皆さんの財産になれるよう頑張ります。

本当にありがとうございます。

# フロンティア登別地鎮祭



9月21日(日)、  
フロンティア登別の  
建設予定地で地鎮祭



が行われました。この日は晴天で最高の日でした。登別市より市長さん、保健福祉部から部長、次長、主幹さんが出席して下さいました。社会福祉協議会からは会長、事務局長さんが出席して下さいました。また道議会議員の赤根さん、神戸さん、町内会長さん、障がい者団体連絡協議会の副会長さん等多数の来賓の出席がありました。

そして地主のご兄弟4名が出席して下さいました。いよいよ工事も始まります。皆さん来年の4月の開所を楽しみに待っていて下さい。

## 後援会費の納入ありがとうございます

山口由美、上野正敏、渋谷美和子、編集工房KAZE、匿名、滝 澄子  
喫茶さをり、高岸芳子

### 『エント茶』

ポロトコタンのカフェ「リムセ」(アイヌ語で踊りの意味)ではサービスにアイヌの人たちがかって飲んでいた野草茶エントを出しています。今までは買っていたのですが来年からは自前で出せそうです。博物館の中にある薬草園で毎日のようにエントを見て来ました。今ではどんな雑草の中でもわかるようになりました。群生地(?)も見つけ、洗って乾して細かく刻んで焙煎して見ました。ばっちりOKです。

ふろんていあ♡メール  
Frontier

就労支援施設  
フロンティア♡MAIL

2014年10月号

〒059-0922  
白老町萩野310-110  
TEL・FAX0144-83-3537

# 小樽に行ってきました!

8月の函館旅行では留守番組だったメンバー総勢28名で9月18日(木)小樽に日帰り旅行に行ってきました。

当日は、雲行きあやしく気温も低め肌寒い日となりましたが参加者は元気に出発!



ガラボンでお菓子をゲット



最初の見学先重厚な蔵でできている田中酒造に11時前に到着。お酒が出来上がる工程を見学。工場では甘酒をごちそうになりました。売店でははずれなしの1回500円のガラボンに大勢挑戦。珍味の景品や豪華にワインが当たった人もいました。

## 小樽港で記念撮影



## 小樽と言ったら「おすしでしょ!」

おすし、唐揚げ、イカそうめん、茶碗蒸し、お吸い物とデザートにゆずシャーベットのセットでした。



お寿司おいしかったよ!

## 境町通りでショッピング

おなかいっぱいになった後は、小樽名物のかま栄の「かまぼこ」ルタオのお菓子をお土産に買いました。オルゴール堂ではステキな音色に酔いしれました。



バスの中  
帰りの車窓から今まで見たことのないおおきな虹が！



印刷班からお知らせ★

# 喪中・年賀状印刷承り中



今年も年賀状の季節がやってきました。フロンティア印刷班では年賀状印刷を承っています。今年には年賀が60種類、喪中が12種類のデザインを用意しています。見本は町立病院売店えがお、いきいき4・6売店エスパス、喫茶茶連蔭、アイヌ民族博物館内cafeリムセ、登別市民会館内ハーモニー、フロンティアに置いてあります。ご注文お待ちしております。

懐かしの昭和流行歌

# 北海道歌旅座「昭和ノスタルジア」公演



北海道  
HOKKAIDO BEATRIZA  
歌旅座

出演 北海道が生んだ魂の歌姫  
**JUNCO**

ヴァイオリン  
高村奈梨子

コーラス・バック演奏  
ザ・サーモンズ

ニッポンが輝いていたあの頃、誰もが口ずさんだあの歌…。  
昭和ヒットパレードがやってくる!!

北海道予ての市町村合併後の行政体制を踏襲し、5市を合併して「ジュンコ」の名称で活動している。2006年、北海道の音楽界で大きな活躍をした「ジュンコ」のメンバーが、北海道の音楽界で活躍している。2006年、北海道の音楽界で大きな活躍をした「ジュンコ」のメンバーが、北海道の音楽界で活躍している。

ジュンコ

2006年、北海道の音楽界で大きな活躍をした「ジュンコ」のメンバーが、北海道の音楽界で活躍している。2006年、北海道の音楽界で大きな活躍をした「ジュンコ」のメンバーが、北海道の音楽界で活躍している。

懐かしの昭和流行歌ショー

# 昭和ノスタルジア

『文化を通して育ち合う会』への入会を待っています

ジュンコさんの張りりと伸びのある歌声は聴いている人を元気にさせてくれます。今年の取り組みは、次年度からの事を考えて、『会員』づくりに集中して取り組んでいます。最初の呼びかけに答えて下さったのが11人でした。現在の『会員』は113人になりました。一人一人の心の寄せ合いが、人口は減ってきたけれど元気な町を創る源だと思えます。文化は人間を育てます。文化は心を豊かにしてくれます。

目標は200人です。「私の趣味に合わないかもしれない。」「前売り券の方が安いんじゃない」「もしかしたら都合がつかないかも知れない」等のご意見は最もです。だからこそ、安い料金で町民が鑑賞できる文化を提供したいのです。小学生・中学生・障がい者・高齢者を無料にしました。当日券は1500円ですが、前売り券は1000円です。できるだけ経済的な負担を減らしてたくさんの方に観ていただきたいのです。今回は白老町のみんなの基金の助成がもらえることになったので、この料金設定なのです。

「文化を通して育ち合う会」の会員になって白老の元気を支えて下さい。

10月21日(火)、18:00～、白老コミセン大ホール

前栃木県地域生活定着支援センター長 関口清美さんに聞く

# 社会復帰へパイプ役を

「累犯障害者・高齢者」の社会復帰には何が必要か。長  
 知的障害者の福祉に関わり、今年3月まで4年間、栃木  
 県地域生活定着支援センター長を務めた関口清美さん(54)  
 に聞いた。

「罪を犯した知的障害者や  
 高齢者を支える仕事に関わって  
 感じたことは、

「刑務所から出てきた人を福  
 祉施設のサービスにつなげば、  
 地域で生活でき、再び犯罪に手  
 を染める事案が減るといふ国の  
 理念は分かれます。ただ、中に  
 は自分の思いを伝えられないま  
 ま、職員や他の入所者に暴言や  
 暴力を振るい、施設を出て行っ  
 てしまう人がいます。再び罪を  
 犯す例もある。衣食住や生活保  
 護、年金などの経済的保障があ  
 りさえすれば再犯を防げるとい  
 う考えは通用しません」

「トラブルを起こすのはど  
 んな人ですか。」

「二部の知的障害者で、トラ  
 ブルを起こす前から福祉の支援  
 になじめていません。人と関わ

ることが不得手で、SOSや、  
 どういう生活をしたのかをう  
 まく表現できずに煮詰まってい  
 まう。自分の感情をうまく伝え  
 られずに福祉施設から去ってい  
 くのですね」

「必要な対応は？」

「本人と社会をつなぐ人が欠  
 かせません。その役目を両親が  
 担えればいいのですが、幼いこ  
 ろから虐待を受け、家族とのつ  
 ながりや薄い場合もある。この  
 ため刑務所から出る半年ほど前  
 から、受け入れる福祉施設の職  
 員とともに本人と何度も会っ  
 て、この職員に社会とのパイプ  
 役になつてもらっています。人

間関係ができれば、本人は『ち  
 よつと頼つてもいいかな』と思  
 い始める。生活も落ち着く。施  
 設にとつては支援の技術のほか

に、彼らと向き合う覚悟も求め  
 られます」

「だとすると受け入れ施設  
 は限定されますね。」

「全国的な問題です。入所者  
 が事件を起こすリスクと、支援

の手段を理由に敬遠される。そ  
 んな中、重度知的障害者の入所

施設『国立のぞみの園(群馬)  
 』では、刑務所から出た障害者を

まず2年間受け入れる。その後、  
 帰りたいと望む地域の施設に行

つても暮らせるよう生活訓練を  
 します。累犯者への接し方、支

え方を職員が学ぶ研修もある。

これを参考にすれば、累犯者を  
 受け入れる施設側のハードルも  
 低くなるのでは」

「検察の入り口支援をどう  
 見ていますか。」

「逮捕された障害者が送検さ  
 れてきて起訴するかどうか決め

るまで最長20日間。大半を捜査  
 に費やすため、残りの数日間で

福祉へつなぐのは土台無理で  
 す。本人の特性や必要な支援に

耳を傾ける時間もなく、意思疎  
 通がないまま釈放されます。こ

れはトラブルのもとです。検察  
 側には、起訴猶予処分にした障

害者がその後どんな生活をして  
 いるのか自分の目で確かめ、課  
 題が何かを知ってほしい」

「今後、累犯者の支援に求  
 められることは。」

「何人を福祉につないだかと  
 いう数の論理では前に進まな

い。成功、失敗を問わず個々の  
 ケースを検証し、その結果を現

場で生かしていけば、当事者も  
 職員も変わっていく。その積み

重ねで、地域にも累犯者を受け  
 入れる土壌が生まれるのではな

いでしょうか」



「福祉関係者が一人一人の障害者と向き合い支えることが大切だ」と話す関口清美さん

せきぐち・きよみ 59年、栃木県生まれ。  
 淑徳大学(千葉市) 社会福祉学部卒業後、宇  
 都宮市職員。主に児童や障害者対象のケースワ  
 ーカーに従事。現在は宇都宮の社会福祉法人飛  
 山の里福祉会で地域密着型特別養護老人ホーム  
 開設準備委員。



## HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可  
発行日 2014年10月10日発行(毎月10日発行)  
HSK通巻番号511号  
編集人/北海道白老郡白老町萩野310-110  
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光  
TEL 0144-83-3537  
会報/217号  
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)  
定価/1部100円(会費に含む)